

ジャンル / 名古屋発文芸

Literary works originating in Nagoya



月刊冊子

あじくりげ

Monthly
"Ajikurige"

発行略歴

- 1955年 名古屋タイムズ社内に発行元として「東海志にせの会」が発足
提唱者：広告部・安藤連氏、岡戸武平（作家）、寺田栄一（俳人・『得月楼』主人）。体裁はB6版・横判。
- 1956年 6月『あじ・くりげ』創刊。題字筆者の明記なし。月刊で発行。
- 1960年 46号から『あじくりげ』と改名。
50号から体裁B6版・縦判へ改定。
- 1961年 60号から題字筆者は安井寿泉氏（書家）。
- 1970年 161号から題字筆者は阿部珂山氏（書家）。
- 1975年 名古屋タイムズ社が経営面から『あじくりげ』の廃刊を決定。
佐竹三郎と松本中が続刊に奔走し、名古屋タイムズから独立。
「東海志にせの会」が出版元に。
- 1976年 昭和50年代が協賛店舗数のピークを迎える。
協賛は48店舗で打ち止める方針となる。
- 1998年 500号から題字筆者は黒田寿水氏（書家）。
- 2003年 好景気期を過ぎたこと、ネットやPR雑誌の普及、執筆者の高齢化や
会員顧客の代変り等により発行部数（＝会員店舗数）の減少が続く。
月刊・年12冊発行から月刊・合併号含む年10冊発行になる
（1・2月／7・8月合併）。
- 2016年 あえなく終刊。最終号は693号。執筆常連による別れの言葉や歴代
寄稿者は1750人。

Monthly "Ajikurige" (1995–2016)

This was a small booklet dedicated to gourmet culture in the Tokai region, published starting in June 1956. It featured essays on food written by a diverse array of contributors—including famous authors, scholars, and actors—who reflected the spirit of the times. The booklet offers insight into the food culture and regional promotion of the Showa era.

参考／朝日新聞（2016年4月）、月刊「あじくりげ」より

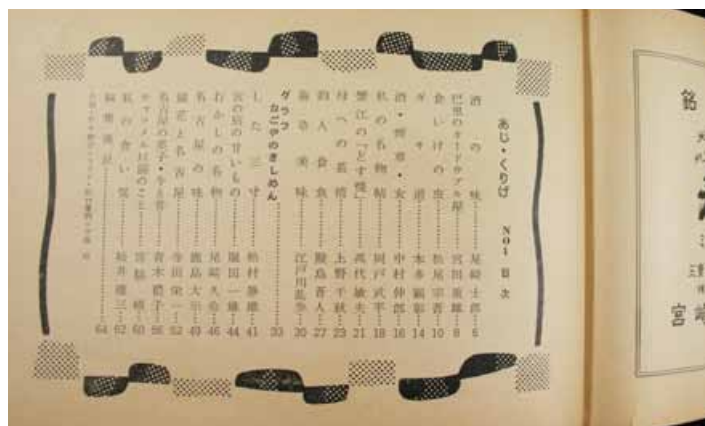
ジャンル / 名古屋発文芸

Literary works originating in Nagoya

名古屋市収蔵の資料

／“月刊あじくりげ”

(一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館)

Collection related to “Ajikurige” in Nagoya City.
Storage location: Cultural Path Futaba Museum,
City of Nagoya.←ほぼ全巻を収蔵（一部欠号あり）。
左上の箱入りの冊子は合本用ファイルに
綴じられている。↓←創刊号の目次。執筆者一部抜粋；
尾崎士郎（小説家）、宮田重雄（画家）、
松尾宗吾（茶道松尾流10代家元）、
本多顕彰（僧侶）、岡戸武平（作家）、
江戸川乱歩（推理小説家）、
尾崎久弥（国学者）、
寺田栄一（割烹“得月楼”主人）、
青木穠子（歌人・歌会主宰）と
多彩な顔ぶれ。←江間章子（えましょうこ、1913 - 2005 年）
の直筆原稿。昭和を代表する唱歌の作詞家、
詩人。
代表作に「夏の思い出」、「花の街」など。上記資料の閲覧を希望される方は、文化芸術推進課または文化のみち二葉館までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。